

Bチャレ チャレンジ部門 実績報告書

団体名	一般社団法人WINK	作成日	2月25日
企画名	子どものいない人のためのプレ終活 実態把握セミナー&ワークショップ<PAANKラボ (Pre Aging Action for No Kids) >		
あなたが考える文京区の課題	<p>①2050年には後期高齢者の5人に1人が、配偶者も子もいない人、いわゆる「身寄りのない高齢者」になると試算されています。文京区も例外ではなく、予想では、令和27年には高齢化は25%を超え、4割は高齢者単独世帯となります。</p> <p>②「身寄りのない高齢者」となった時、頼りになるのは遠い親戚よりも身近な知人。つまり地域におけるつながりが重要ですが、子どものいない人たちは「子どもを通じた地域とのつながり」を持つ機会がなく、子どもがいる人に比べて頼れる「ご近所さん」が少ないことが多い。</p> <p>③一般に現役を引退した人（主に男性）は社会から孤立しがちですが、福祉の力に頼るだけではなく、自助・共助の体制を築いていくことは、20年後（高齢者の4割が単独世帯になる前）に向けて達成すべき喫緊の課題です。</p>		
実施期間	イベント：2025年11月29日 アンケート：2025年11月29日～ 12月上旬	実施場所	地域連携ステーションフ ミコム (C-base)
対象者	区内在住で子どものいない45～65歳（アラフィフ～アラ還）		
参加者の募集方法	<ul style="list-style-type: none">・Peatixにて告知・申込：（一社）WINKの過去イベント参加者に訴求。・プレスリリース実施（PR Times）：広い媒体にリーチを広げた。（転載54サイト）・自団体SNSでの告知・拡散（Facebook、instagram）・区内施設（図書館、スポーツ施設等）でのチラシ配布。・区内都営地下鉄駅での配布。・社会福祉協議会での媒体掲載		

実施した 事業内容	<p>【A】 イベント</p> <p>①内容：講演会＋参加者対話会 ②テーマ：子どものいない人のための「老後ひとり難民時代」を生き抜く～地域社会との関わり方～ ③目的：子どものいない人を対象に、将来への備えを心身の元気な早いうちに取り組むことを促す。特にご近所とのつながりの重要性に気づき行動を促す。 ④登壇者：沢村香苗氏（(株)日本総合研究所シニアスペシャリスト 書籍「老後ひとり難民」（幻冬舎）著者） ⑤参加申込数：合計 65名 会場 18名 / オンライン 47名（うち男性3名） ※対話会で出た意見については、別シートを参照 ※アンケート回答率向上のため、沢村氏の著書「老後ひとり難民」抽選によるプレゼントを実施</p> <p>【B】 アンケート調査</p> <p>①内容：子どものいない人の「将来への備え」に対する現状調査 ②方法：Google Formを利用したオンライン調査 ③結果：合計76名の回答 内訳 ・ 【A】 のイベント参加者：41名（会場参加：12名、オンライン参加：29名）</p>		
事業実施に 当たって実 際に協力の あった団	<p>①講演者：(株)日本総研シニアスペシャリスト 沢村香苗氏 ②東京都行政書士会文京支部：告知、③小石川税理士会：告知 ④文京区立各図書館：チラシ配置、 ⑤文京区立各体育館：チラシ配置 ⑥都営地下鉄文京区内駅：チラシ配置</p>		
収入内訳 《結果》	<p>品目</p>	<p>金額</p>	<p>備考 (件数、単価などを詳しく記載)</p>
	<p>Bチャレ助成金</p>	<p>¥85,000</p>	
	<p>事業費</p>	<p>¥1,247</p>	<p>自己資金</p>
	<p>品目</p>	<p>金額</p>	<p>備考 (件数、単価などを詳しく記載)</p>
	<p>広告費（別添3-1）</p>	<p>¥38,057</p>	<p>Facebook広告①：1029円、Facebook広告②：4028円、プレスリリース（PRTimes）：33,000円</p>
	<p>チラシ印刷費（別添3-2参照）</p>	<p>¥3,620</p>	<p>500部</p>

支出内訳 《結果》	チラシデザイン費（別添3-2参照）	¥5,500	1件
	消耗品費（別添3-3）	¥648	模造紙（Amazon）、付箋（Amazon）
	資料印刷費（別添3-3参照）	¥0	配布資料6枚×18人分（1080円自己資金支出）
	交通費1 チラシ配布（別添3-4）	¥3,286	添付別紙
	交通費2 その他（別添3-4）	¥2,916	添付別紙
	講師著書進呈（別添3-5）	¥2,220	書籍代、送料（180円自己資金支出）
	講師謝金（別添3-6）	¥30,000	日本総研 沢村香苗氏
助成交付額 /支出総額	¥85,000/ ¥86,247		
<p>1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは10点満点中、何点ですか。その理由も含めて記載してください</p> <p>【8点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日のイベントの目標としていた数を達成できたこと。参加者からの満足度が高かったのは高く評価したいと思います。 ・講演と対話の組み合わせで、参加者同士の課題意識を共有、お互いに共感を醸成する場となりました。 ・イベントを契機に行ったアンケート調査を通じて、対象者の「終活・老活」への現状や意識を把握することができました。 ・一方、男性の参加者がなかった点（申込は会場2名、オンライン1名いたが、当日はオンライン参加1名のみ）は残念。告知方法形態等の研究不足が反省点です。 			

2.企画を行なってみて気付いたこと、改めて確認できたことを記入してください(箇条書でも可)

・想定以上に、「子どものいない」ことに対して防衛的になっている人が多いと思いました。参加者の複数人から「会場での参加を直前までためらった」と言われたのですが、その理由が「顔を知られたくない」というものでした。偏見への抵抗感や内面的抑圧から、他者と交流することに防衛的になっている様子がうかがわれました。加えて、特有の詐欺や搾取、ストーカー等に対する警戒もあり、他者とのネットワークづくりを難しくしている印象です。

・そうした防衛的な心理状態への対応をどうすればよいか、今後地域のネットワークを作る上で考慮すべきポイントであると認識しました。

3.本企画の開始時に設定した課題は、実際に“文京区の課題”だったことが確認できましたか。本企画を通してどのように検証を行ったかを記載してください(分析や考察など)

企画の成果

・イベントでの対話会での参加者の発言やアンケートから、45～65歳（高齢者福祉対象前）の年代の子どものいない人は、将来に漠とした不安があること、しかし具体的な手を打てていないことが裏付けられました。アンケート回答から、経済的な余裕は他の地域よりあるという傾向が見られるため、対策の遅れは知識不足や心理的なものと推測されます。

・「こうした場を続けてほしい」といったように「子どものいない人」という共通性を持ったもの同士のつながりを希望するといったコメントも複数ありました。と一方で、会場では「会場に参加するのは躊躇いを覚える」という声も聞かれました。詐欺や勧誘等への強い警戒心があり、それが直接の人的つながりを築くうえでのハードルになっていると思われる。こうした防衛心を和らげる工夫が必要であると考えられます。

4. 本企画を経て、今後の団体の活動の展望についてご記入ください

・潜在的なニーズがある対象者に対し、継続的に今回のイベントのように、対象者の属性を絞ったうえで「終活・老活」の必要性や方法を伝えることが必要と考えます。

・「子どものいない」ことから生まれた防衛意識が強いため、和らげる工夫が必要です。参加者からの意見をもとにすると、行政や公的機関への安心感、期待は高いため、「勧誘等を禁じるグラドルールを明示する」と言った工夫以外に、「行政や公的機関との協業で安心感を高める」といった配慮が必要と考えます。あわせて、地元でのつながりをゴールに据えつつも、導入時はオンラインでの開催や匿名性を保持しながら話のできる場を継続的に持つことも案として考えられます。

・具体的な行動につなげる必要性を感じ、(一社)WINKとして事後に「遺言書の書き方講座」を開催しました。本イベントの参加者にもご案内し参加いただきました。今後も、ここで喚起された課題意識を行動につなげるため、同様の取り組みを続けたいと考えています。

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

11月29日イベント参加者の声（付箋書き起こし）

子供が居ない人生をよりよく生きていこうと考えている同志がいてちょっと心強くなりました

今日のワークショップの中で、すでにそれぞれ未来のために行動を起こしている女性がいると知り、とても勉強になりました。友人におひとり様も多いので学びをシェアしていきたいです！！

子供がいないこと、独身であることで差別されていると感じている人が自分だけではないと分かってよかった。「それが何か？」と堂々と言うことにします。

悩んでいないでポジティブに生きるために、このようなセミナーに参加しつづけていきたいです。

色々な人生の一部がかいま見れて興味深かった

同じような境遇の人達が話ができる今回のようなセミナーは、とても有意義だと思いました。

勉強になりました。コミュニティを広げて将来につなげたい・今から未来に向けて一人になった時にやって欲しいリストを作ろうと思う

同じ子どもがいない立場の人と出会える機会がないのもっと今日のようなつながれる場所があったらいいなと思います

この講座、ワークショップを文京区で何度も受けたい。お願いします

WINKさんが文京区内の色々な支援制度団体とつながって紹介して欲しい

この講座・ワークショップを文京区の各所で開催して欲しい。何度も

良いイベントでした。日頃から当事者が集まり考えていく必要がありますね

最後の沢村先生の「いくらあればいいのか、何をすればいいのか」なんて人それぞれだし、誰にもわからないというコメントが一番ハッとしました。それをこれから自分なりに考えていきたいです。

死後や認知症になった時の事業は民間ではなく行政にお願いしたい

連絡先をアナログで記す・コミュニティを意識し、人と関わる・健康でいる毎日・日々を楽しむ

不安をあおりすぎない、でも発信する・「家族」を前提としない・ゼロベースの制度設計になるといいなあ

同じ不安を持っている人が多いと感じました。

ひとりで生きることのせつなさを実感しました。この想いが行政に仿くまで寿命があるかな？

お一人様の不安に対する対策や情報を知りたいです

大和市横須賀市 移住します

実態把握の研究がされていることがうれしかった・それを伺えて、ちょっと整理できました。今後を期待します。ありがとうございました。

【告知チラシ】

子どものいない人の

「老後不安」に向き合う

～起きていることを知り、**現役世代から**備えよう～



2025年11月29日(土) 13:00～16:00

文京区民センター 地下1階 C-base / オンライン 同時開催

老後不安は、孤独死や認知症、老後の住まいや通院・身分保障問題、長生きすることによる資産寿命・高齢期の生活困窮など、必ずしも子どもがいない人に限った話ではありません。

しかし、現在の社会制度は「家族の支えがある」ことを前提に組み立てられているため、頼りにしやすい「子ども」がいない場合、なにかあったときにすべてが立ち行かなくなるリスクがあります。

人生の終わりを考えることは、「今いかに生きるか」を考えることに直結します。いつか…ではなく、「まだまだ現役」のうちにこそ、実態を学び、備えておくことが大切です。

実際に何が
起きているの？

どんな
備えが必要？

終活って
いつから？

※「子どものいない人」に限定し、共に“これから”を考えるためのイベントです。

◆ PROGRAM ◆

第1部:基調講演

子どものいない人のための「老後ひとり難民時代」を生き抜く～地域社会との関わり方～

「老後ひとり難民」の著者沢村香苗氏をお迎えし、今起きている具体的な問題や課題解決の方向性について伺います。

講師
㈱日本総合研究所
沢村 香苗 氏



第2部:対話会(ワールドカフェ) ※会場参加の方のみとなります。

自分が備えること、周囲や地域にお願いしたいこと、自分が周囲や地域に対してできることなど、参加者同士の対話を通じて考えましょう。

【対象】 文京区内に在住または在勤で、子どものいない方(45～65歳くらい)

【参加費】 無料

【参加方法】 申込サイトよりお申し込みください。
<https://wink-bunkyo2025.peatix.com>

お申込みはこちら



【定員】 会場参加: 30名、オンライン参加: 90名

【会場】 文京区民センター地下1階(文京区本郷4-15-14) C-base 地下鉄三田線A2出口直結

主催: 一般社団法人WINK (文京区社会福祉協議会「Bチャレ」助成事業)

<https://wink.jp.net/>

※一般社団法人WINKは、Wellbeing Institute for No Kidsの頭文字からつけた社名です。

2014年にFacebook上で開始した「子どものいない人生を考える会」を元に、2021年に法人化したしました。

“将来への備え”に関する意識調査 集計結果

【サマリー】

限られたデータ数ではありますが、本事業を通じて、子どものいない層が抱える「老後不安」の具体像が明らかになりました。

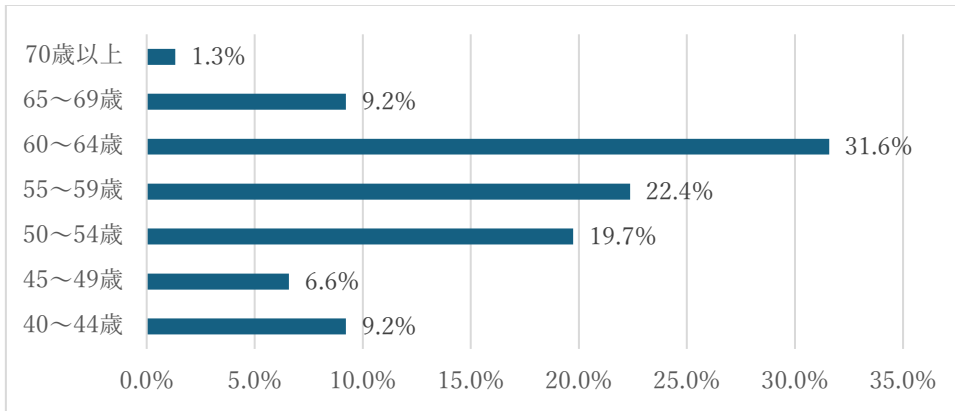
- 高い参加意欲と満足度: 76名の回答を得ており、イベント第2部の対話会では「同じ立場の人と共感できた」と高い満足度を得ています。
- 文京区特有のニーズ: 区内在住者は他地域と比較し、特に「地域・人とのつながり」への欲求が顕著です。
- 「孤立予備軍」の可視化: 職場や趣味のつながりが希薄な層が多く、入院時の身元保証や死後事務を託せる「家族外のキーパーソン」不在に強い不安を感じています。文京区では特に「相続」への不安が高い傾向が見られました。
- 具体的な解決策の渴望: 漠然とした不安ではなく、医療同意や住まいの確保といった実務的な「知識習得」と、いざという時に頼れる「緩やかな地域縁」が求められています。
- 今後の展望: 「継続的に学べる場」への期待が高く、行政・民間サービスの枠組みを超えたコミュニティ形成が急務であると考えられます。

【アンケート実施概要】

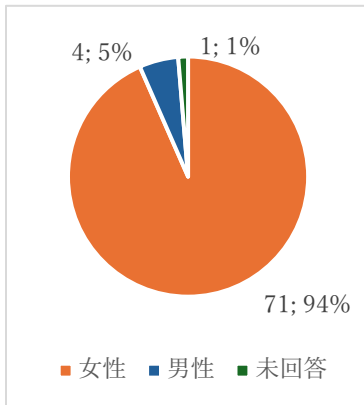
1. 対象者：イベント参加者（会場/オンライン）
その他、SNS やメールで呼びかけ
2. アンケート実施期間：2025年11月29日～12月上旬
3. アンケート実施方法：オンライン調査（Google form）
4. アンケート回答者数：76名
※内訳 イベント参加者：41名（会場参加：12名、オンライン参加：29名）
SNS やメールで問いかけたイベント非参加者：35名

【回答者プロフィール】

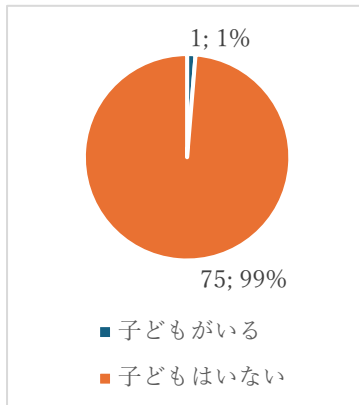
1) 年齢



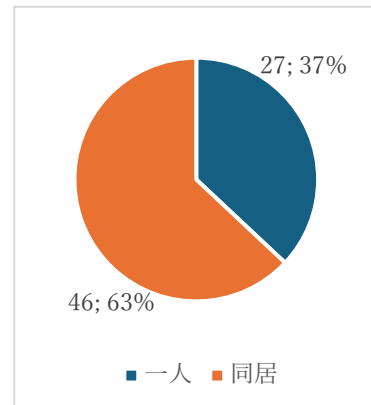
2) 性別



3) お子さんは

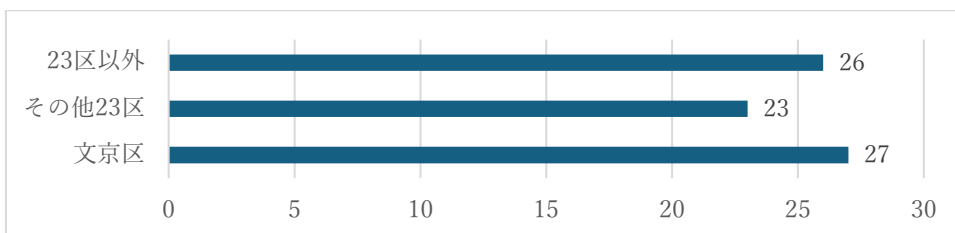


4) 一緒に暮らしている人

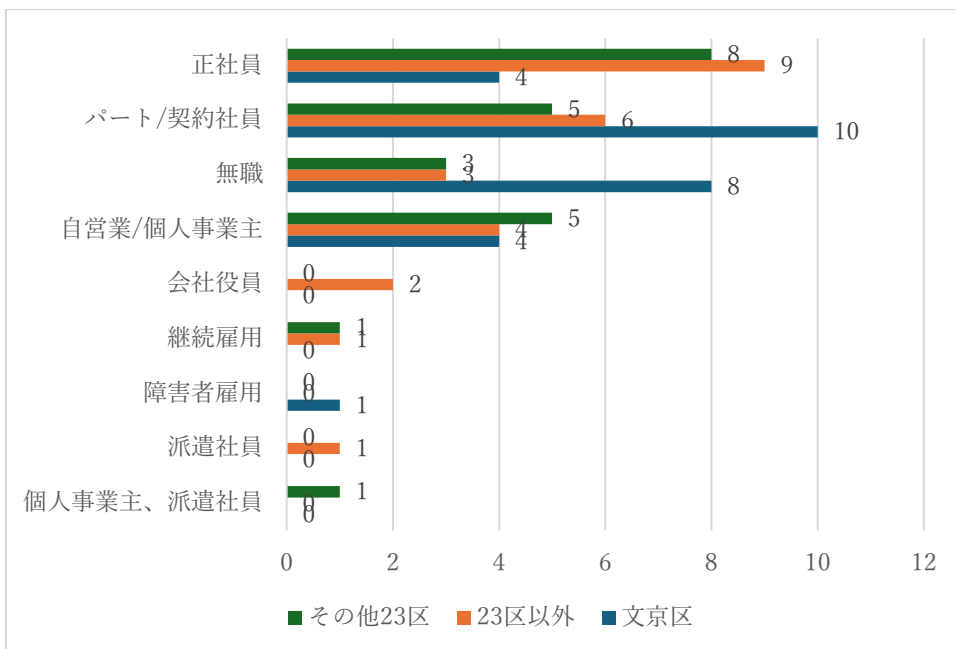
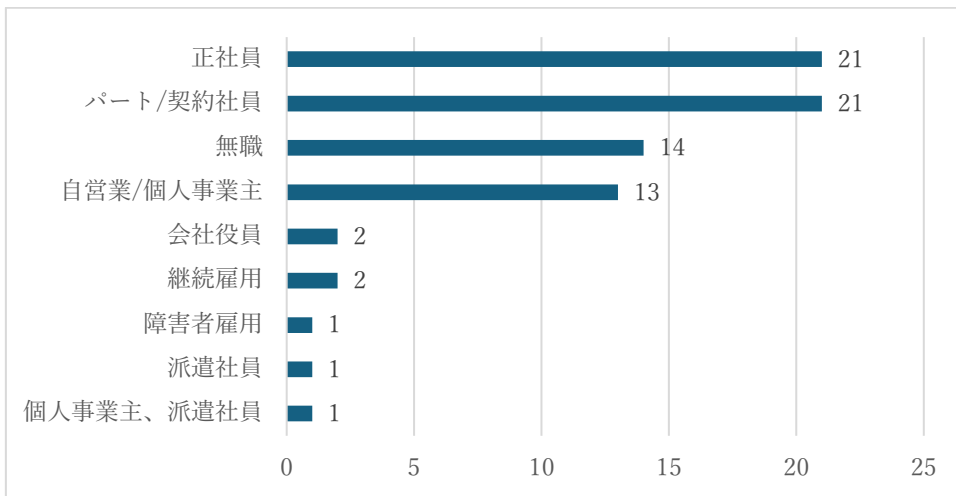


は

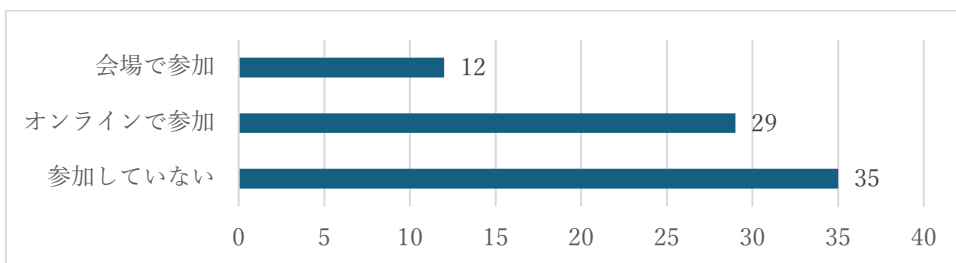
5) 居住地域



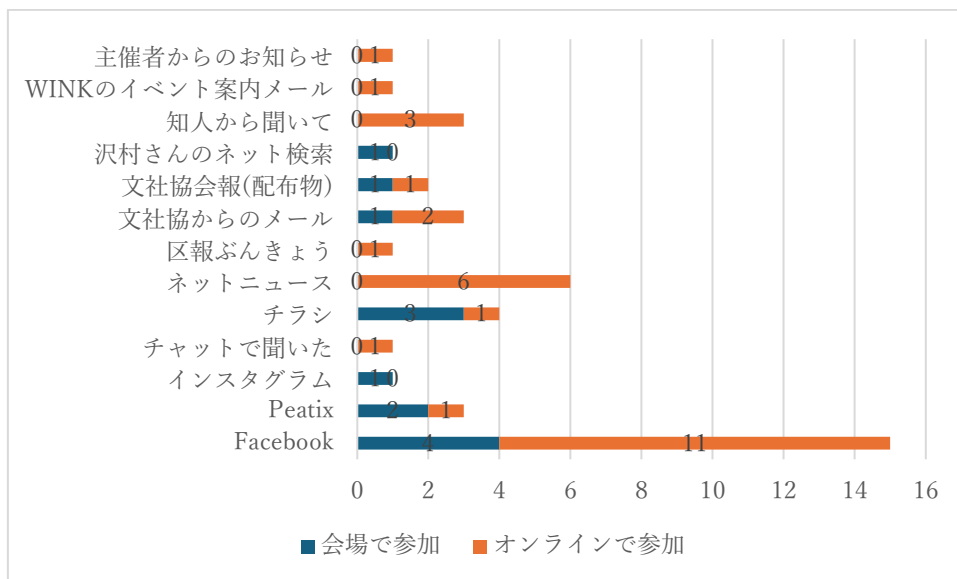
6) 現在の就業状況



7) 11月29日(土)のイベント「老後不安に向き合う」に参加しましたか？

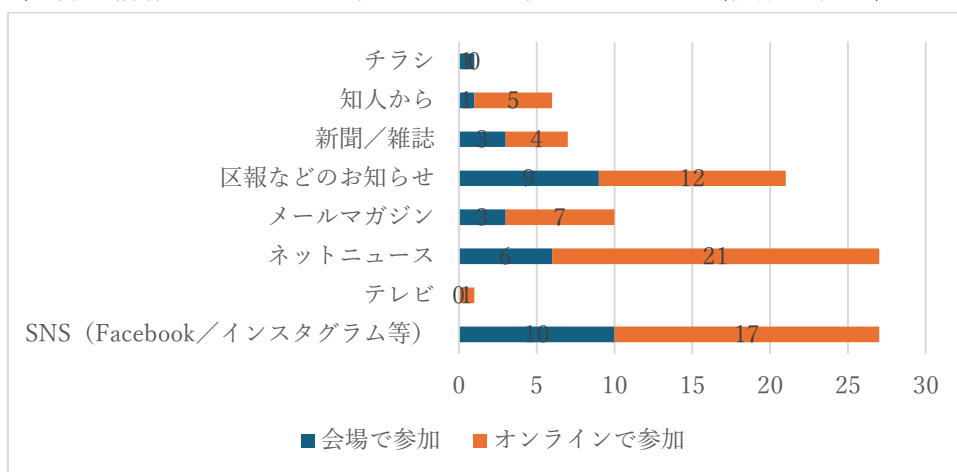


8) 何を見て参加しましたか。(複数選択可)



- ・会場参加者は Facebook (31%)、チラシ (23%)
- ・オンライン参加者は Facebook (38%)、ネットニュース (21%)、知人 (10%)

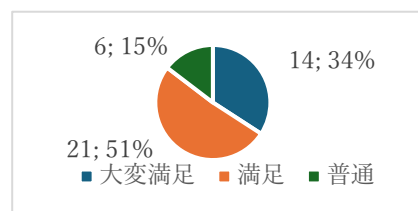
9) 普段情報はどこから入手することが多いですか？(複数選択可)



- ・会場参加者；SNS (31%)、区報 (25%)
- ・オンライン参加者：ネットニュース (31%)、SNS(25%)、区報 (18%)

【11月29日イベント評価】

10) 本日のイベント第1部（講演）についての満足度をお聞かせください。



11) そのように感じた理由を教えてください。（抜粋）

▼大変満足

- ・現状を整理できました。
- ・身元保証サービスをしっかり見極めなくてはいけないと感じました。
- ・自分の代わりに動いてくれる人（家族以外）を検討したいと改めて思いました。

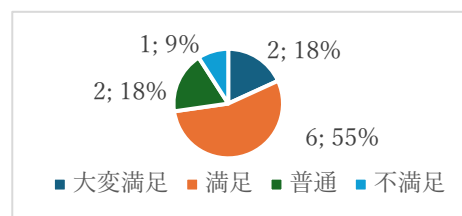
▼満足

- ・何が問題かについて、整理できた
- ・誰もがおひとりさまリスクがあることを再確認した
- ・一人暮らしの老後サポートについて現状が分かった

▼普通

- ・地域社会との関わり方と題名がついていたので参加を決めましたが、今の現状の情報が多く、いまいち関わり方がわからなかったです。というか、関わり方がないんだなぁと思いました。具体的な関わり方を教えていただけたらと思うので残念でした。
- ・想定内の内容の可視化

12) 本日のイベント第2部（対話会）についての満足度をお聞かせください。



13) そのように感じた理由を教えてください。（抜粋）

▼大変満足

- ・私が知りたいけど取り組め無かった内容だったので基調講演の1時間があったという間でした 文京区で繰返しこの講座、講演、ワールドカフェ、対話会に参加したいです 楽しかった

▼満足

- ・同じ立場の人達と話すことで、共感できて、これからどうして行ったらいいか具体的に考えていってみようという気持ちになった
- ・貴重な機会だったし、初対面なのでかえって本音で話せたかも？

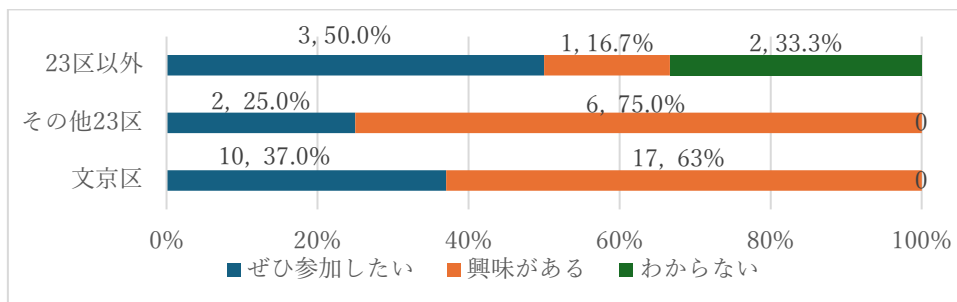
▼普通

・テーマが難しく、参加者の方ともあまりコミュニケーションが取れず消化不良でした。

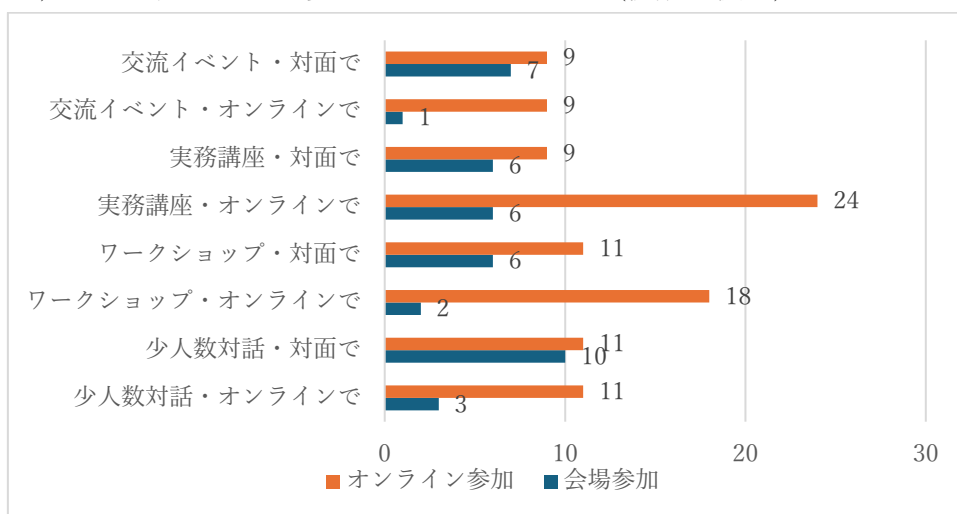
▼不満足

・もっと、有意義な時間に出来たように思う

14) (参加者に対して) 子どものいない人の終活に関する取り組みがあれば参加したいですか？



15) どんな形であれば参加しやすいですか？ (複数選択可)



オンライン参加者は「オンライン寄り」、会場参加者は「対面」指向が見られるが、座学による実務講座については、オンラインニーズが高まる。

全体的に、実務講座による「知識習得」への関心が高いが、文京区内においては「少人数対話」のニーズが見られる。

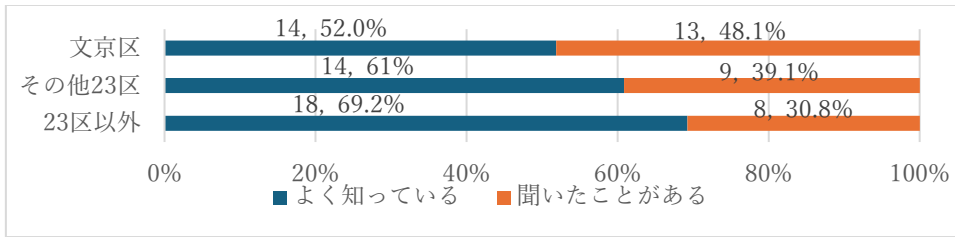
16) その他、意見やご要望があればお聞かせください。

・WINK 様の活動に関心はありますが、まずは非会員として参加できる機会が多くあると有難いです。

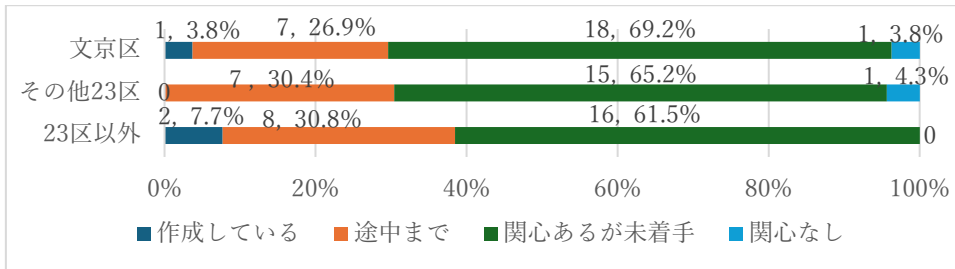
- ・自分がそうなのですが、ひとりっ子のおひとりさまは、兄弟に加え、甥や姪もいないため、さらに困難が多いと感じています。そこに特化した情報やアドバイスも欲しいです。
- ・話したいテーマをもっと幅広くしても面白いかも。
- ・今回、会場参加を決めましたが、やはり参加したいけどオンラインでと思う方も多いのかな？と思いました。
- ・文京区で何度も開催して欲しいです 宜しく御願致します 独りでは動き辛いけどの講座が切っ掛けになります
- ・利用出来る行政サービスや民間サービスの情報を知りたい

【将来への備えについての状況】

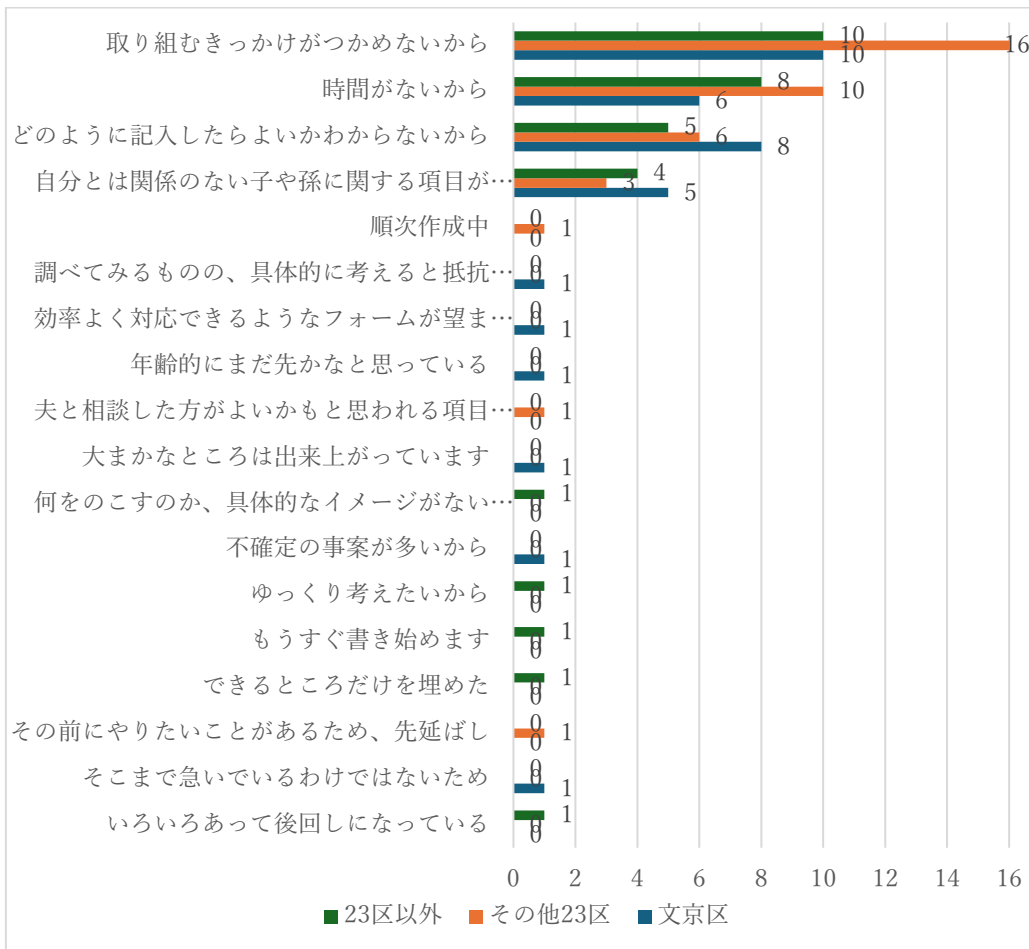
17) 「エンディングノート」を知っていますか？



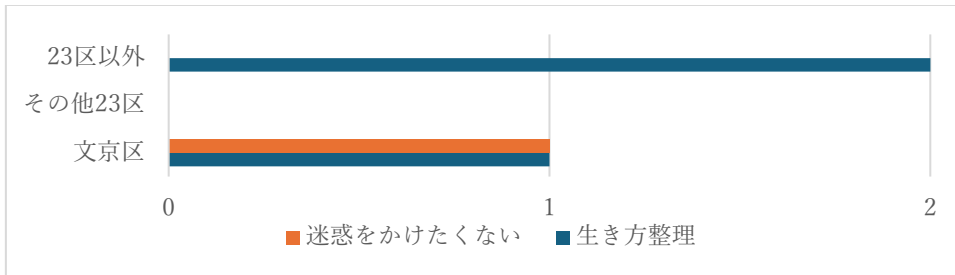
18) 実際に作成したことはありますか？



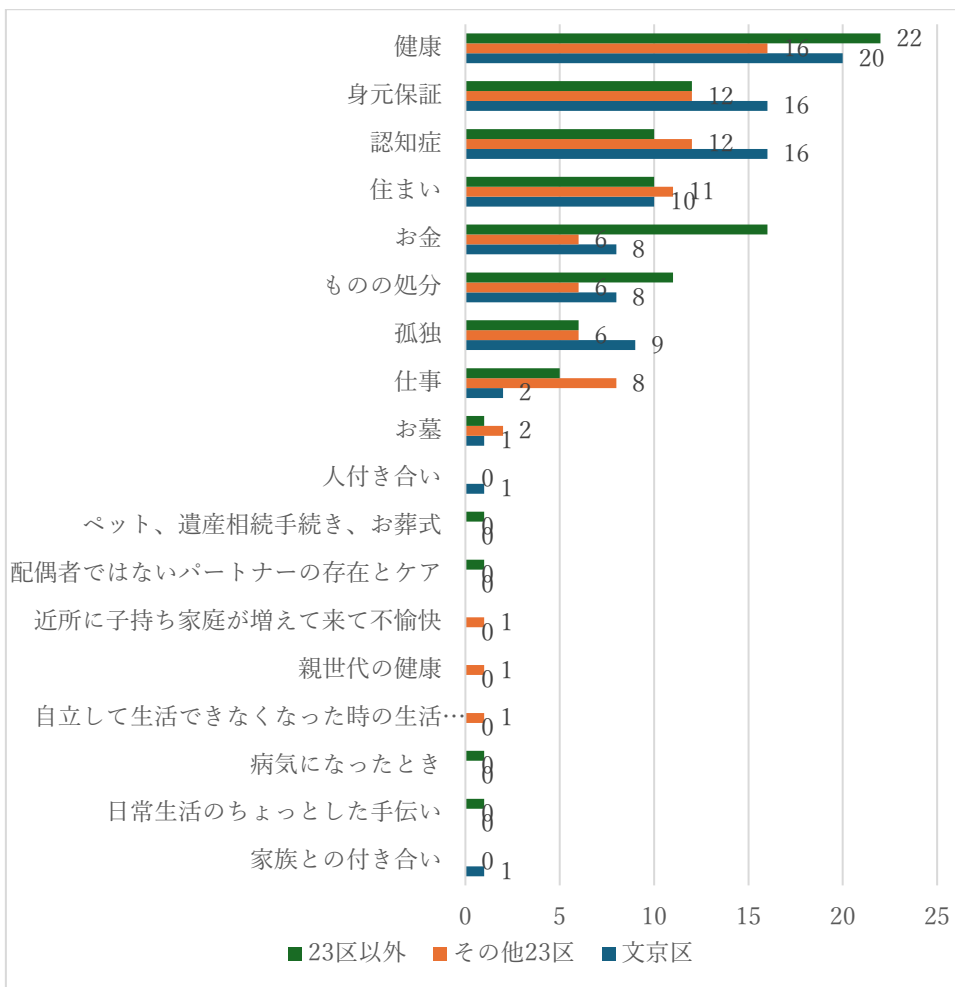
19) 途中まで、または未着手の理由を教えてください。（複数選択可）



20) (書いている人に) エンディングノートを書く目的は？ (複数選択可)



21) 今後の人生を考える中で、不安に感じていること (生きている間について)



健康は全体的に高いが、文京区では比較的小金に関する不安は少なく、認知症・身元保証に対する不安が高い。

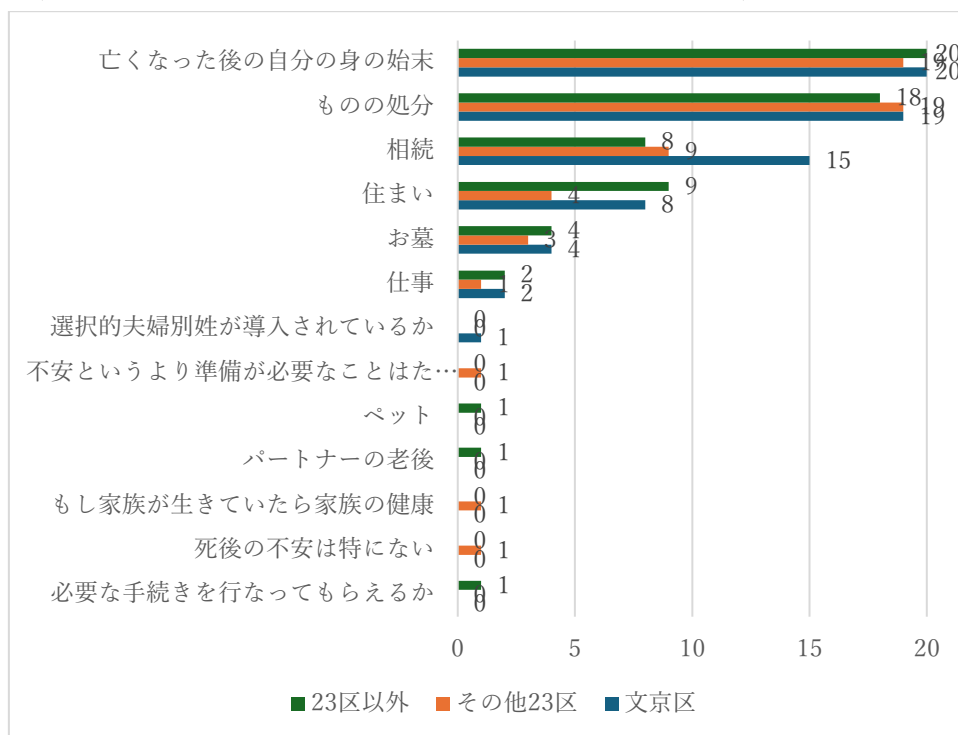
22) 具体的にどんな不安がありますか？書ける範囲で教えてください。

◆孤立予備軍：困った時に相談できる人がいない問題

- ・「緊急連絡先に書ける人がいない」

- ・「信頼できる友人はいるが遠方。近くには誰もいない」
- ・「困ったときに頼める人がいないことが不安」
- ・「老後に自分を気にかけてくれる人が誰もいない」
- ◆キーパーソン不在：医療・入院時の手続きが不安という問題
「病気・入院」「判断能力低下」に関する不安が多い
(医療・入院手続きへの不安：35名以上、認知症・判断能力低下への不安：多数)
- ・「入院時にキーパーソンが必要だと知り不安になった」
- ・「判断能力が落ちたらどうなるのか、どんな手続きが必要なのか知らない」
- ・「医療同意や入院時の手続きが、一人だとどうすればよいのか不安」
- ◆住まいと保証人の問題
- ・「家を借りるときに保証人がいないので不安」
- ・「高齢になったときに入居を断られるのでは」
- ・「更新のときに困るのではないか」
- ・「身寄りがいない人は住む場所が制限される」

23) 今後の人生を考える中で、不安に感じていること (死んだあとについて)



全体的に、自分の身の始末・ものの処分が課題。文京区においては相続が高いのが特徴といえる。マンションの高騰などの影響もあるのか？

24) 具体的にどんな不安がありますか？書ける範囲で教えてください。

◆死後事務を誰に頼めるかわからないという問題

死後事務・遺品整理・家じまい・葬送に関する不安が大量に出現。

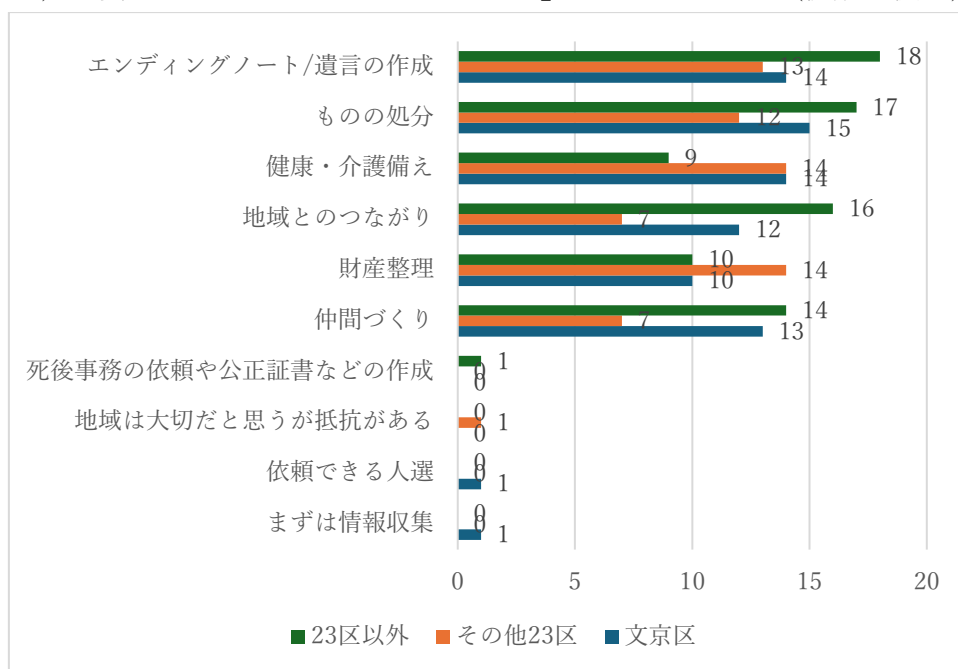
- ・「死後の手続きを頼める人がいない」
- ・「遺品整理や家の退去が大きな心配」
- ・「迷惑をかけたくないが、頼む人がいない」

◆終活・書類整理ができていないという問題（行動ギャップ）

- ・「どこから手をつけて良いかわからない」
- ・「一人で向き合うのがつらい」
- ・「気持ちが追いつかない」
- ・「情報が多すぎて選べない」
- ・「優先順位が低くて後回しになる」

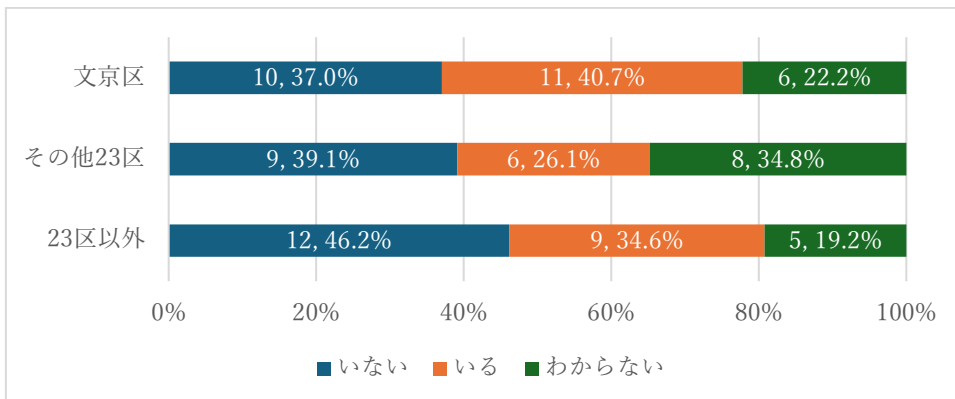
25) これらの不安に対して、どのような取り組みをしていますか？

26) 必要だと思うが「できていないこと」はありますか？（複数選択可）

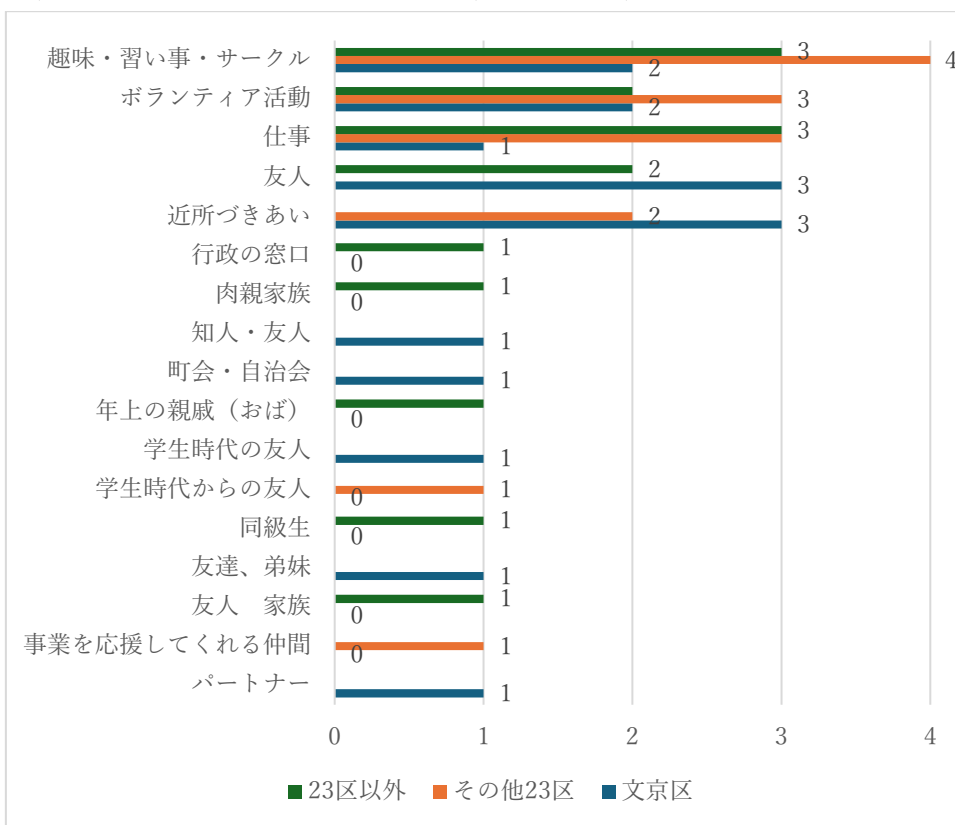


文京区に「仲間づくり」への意向が見られる。

27) 困ったときに、相談できる人が身近にいますか？

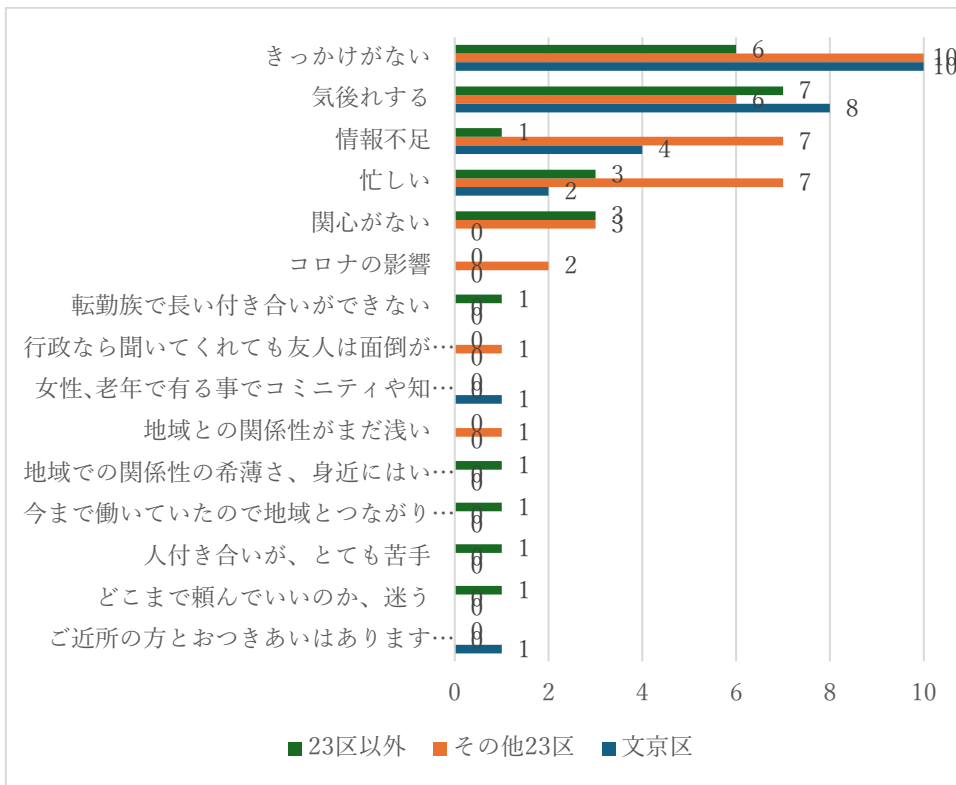


28) それは、どんな存在ですか？（複数選択可）

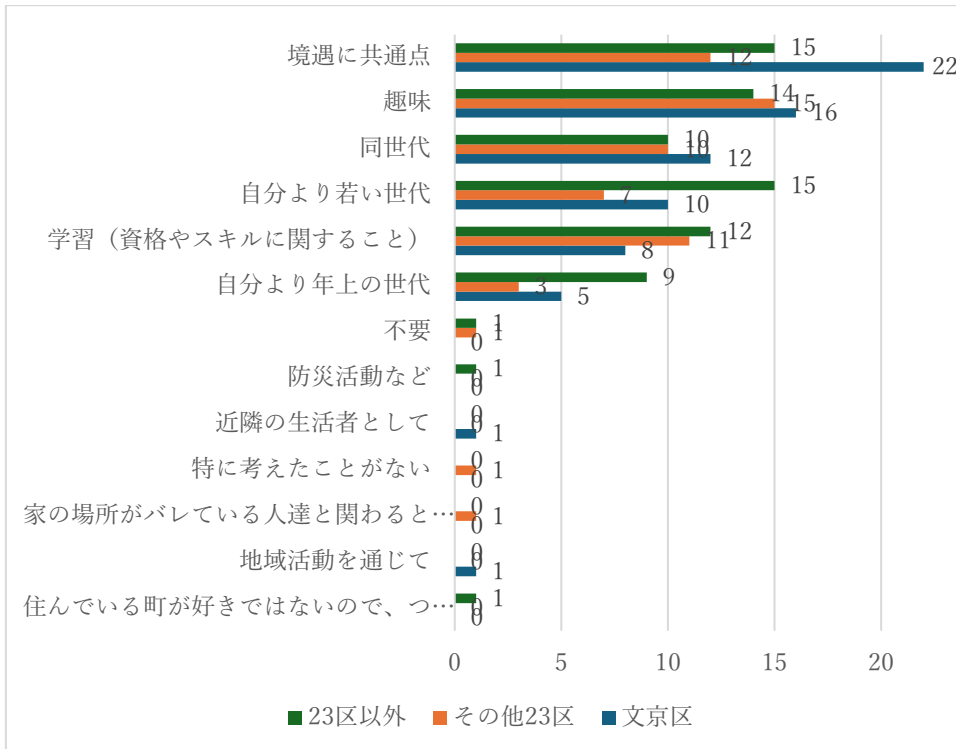


文京区に置いて「趣味」のつながりは薄い（文京区 18%、23区：67%、23区以外 33%）。「職場つながり」も弱い（文京区 9%、23区：50%、23区以外 33%）

29) それは、なぜだと思いますか？（複数選択可）



30) 地域とどのような形であればつながりたいと思いますか。(複数選択可)



文京区は「境遇に共通点がある」がダントツに高い。子どものいない人同士でつながり、そこから趣味や同世代との関係性、若い世代との関係性を築けるのが望ましい。

31) 「住んでいる地域とのつながり」に期待することはありますか？あなたの求めることを教えてください。

◆「ゆるいつながりがほしい」ニーズ

上位は以下の4つ：

- 1.困ったときに連絡を取り合う弱いつながり
 - 2.情報交換ができる仲間
 - 3.趣味や外出を共にできる人
 - 4.社会貢献活動を共にしたい人
- ・「深い関係ではなく“ゆるいつながり”がほしい」
 - ・「地域で弱い連絡先があると安心できる」
 - ・「同じ悩みの人と話してホッとした」
 - ・「つながりのハードルは低くしてほしい」

32) 安心して生きていくために今一番必要と思うことはなんですか？

◆全体的に

総括すると「安心して生きていくために必要なことを、まとめて“試せる・つながれる・学べる場”がほしい」という要求が見えてきます。具体的には以下3つの要素。

①人とのつながり・相談できる相手

- ・単なる交流ではなく「いざという時に頼れる関係」
- ・家族・親族ではなく、家族外をつながりを見ている回答が多い

②将来に備えるための具体的な情報・知識

- ・医療・入院
- ・住まい
- ・死後事務
- ・手続き・書類

※今回のアンケートに参加している人は、漠然とした不安というよりも“何が分からないかは分かっている”段階にあると思われます。

③安心できる居場所・継続的な場

- ・一度きりの講座ではなく
- ・継続的に関われる場
- ・緩やかで、義務感のないつながり

◆地域カテゴリごとの傾向

【文京区】

▼特徴

- ・「人とのつながり」ニーズが最も強い
- ・「安心して相談できる関係」
- ・「同じ立場の人と話せる場」

▼背景にある状況

- ・就業が不安定／無職層が相対的に多い
- ・仕事・趣味由来のつながりが弱い
- ・近所づきあいはあるが「深い相談」はできない

※“制度の隙間に落ちている現役世代の孤立予備軍”が集中していると考えられます。

【その他 23 区】

▼特徴

- ・「情報・知識」ニーズが相対的に高い
- ・「正解を知りたい」「選択肢を整理したい」

▼背景

- ・就業している人が多く、時間的制約が大きい
- ・つながりはあるが“テーマを絞った場”がない

※セミナー×短時間×明確なテーマが刺さる層と思われ、WINKo Lab.への誘導が期待されます。

【23 区以外】

▼特徴

- ・「お金」「生活基盤」に関する不安が前面に出やすい
- ・「わからない」「判断できない」という回答も相対的に多い

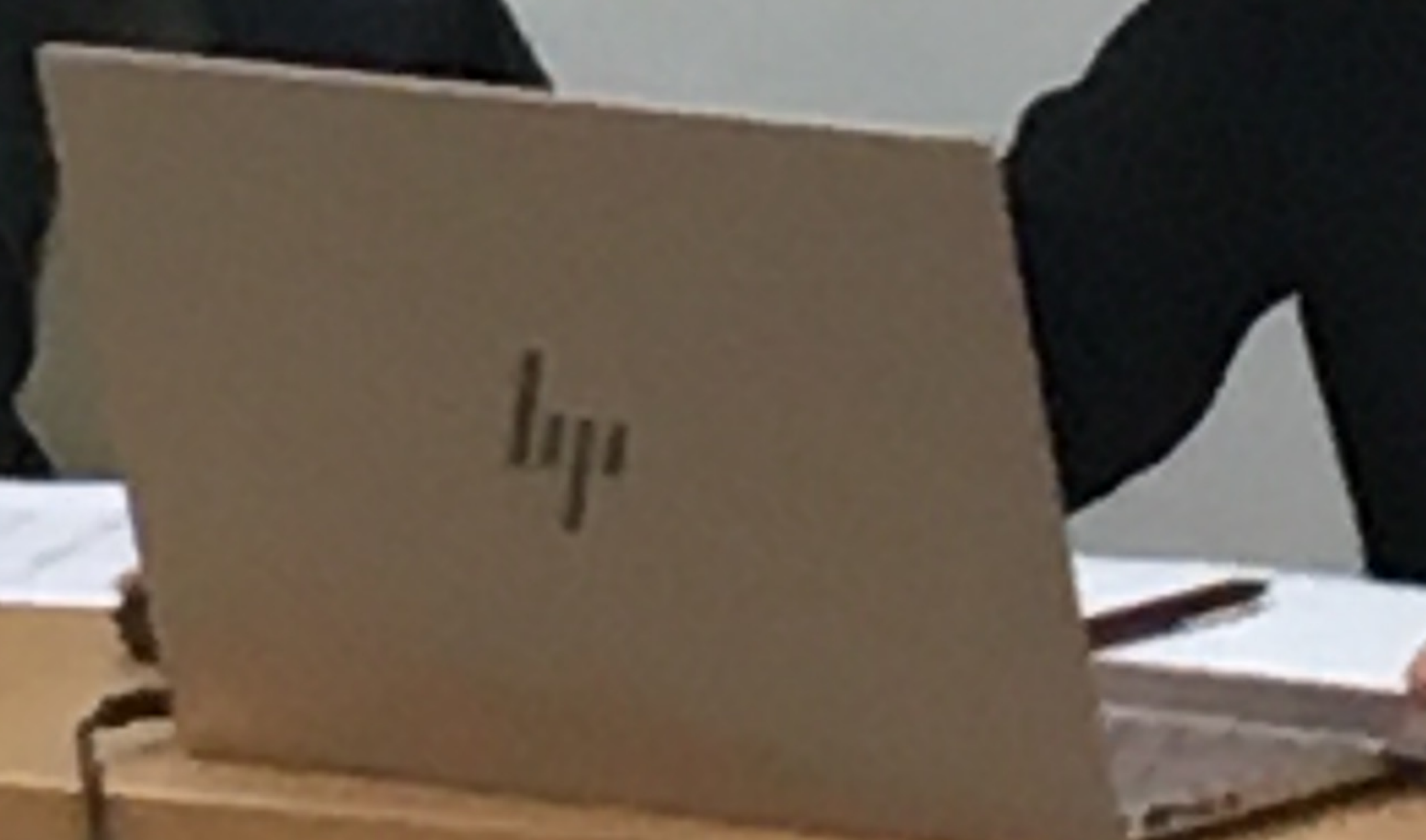
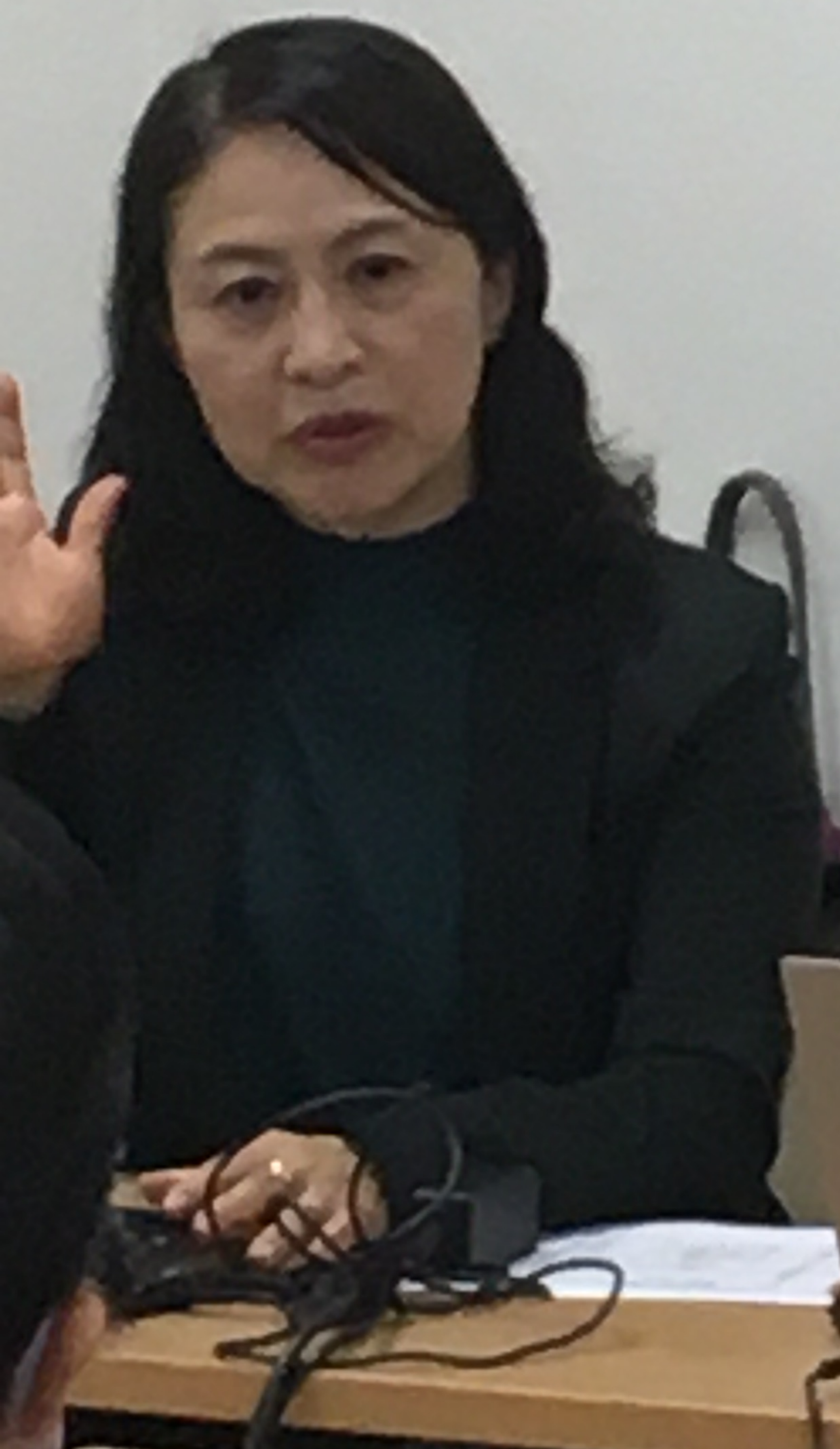
▼背景

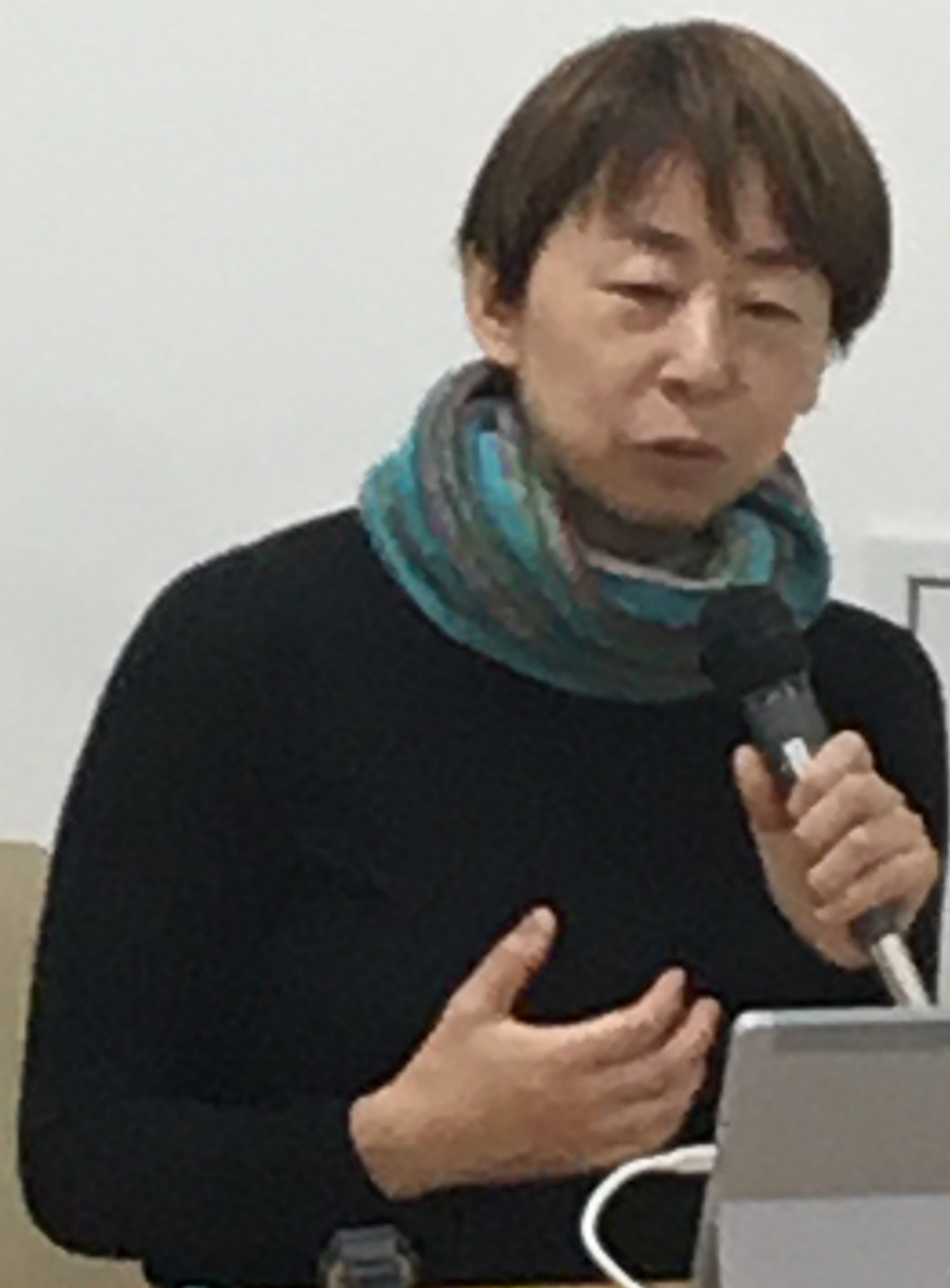
- ・地域資源の差
- ・行政サービスの分かりづらさ
- ・情報取得コストが高い

※今回の文京区との取り組み同様の横展開が考えられそうです。

以上

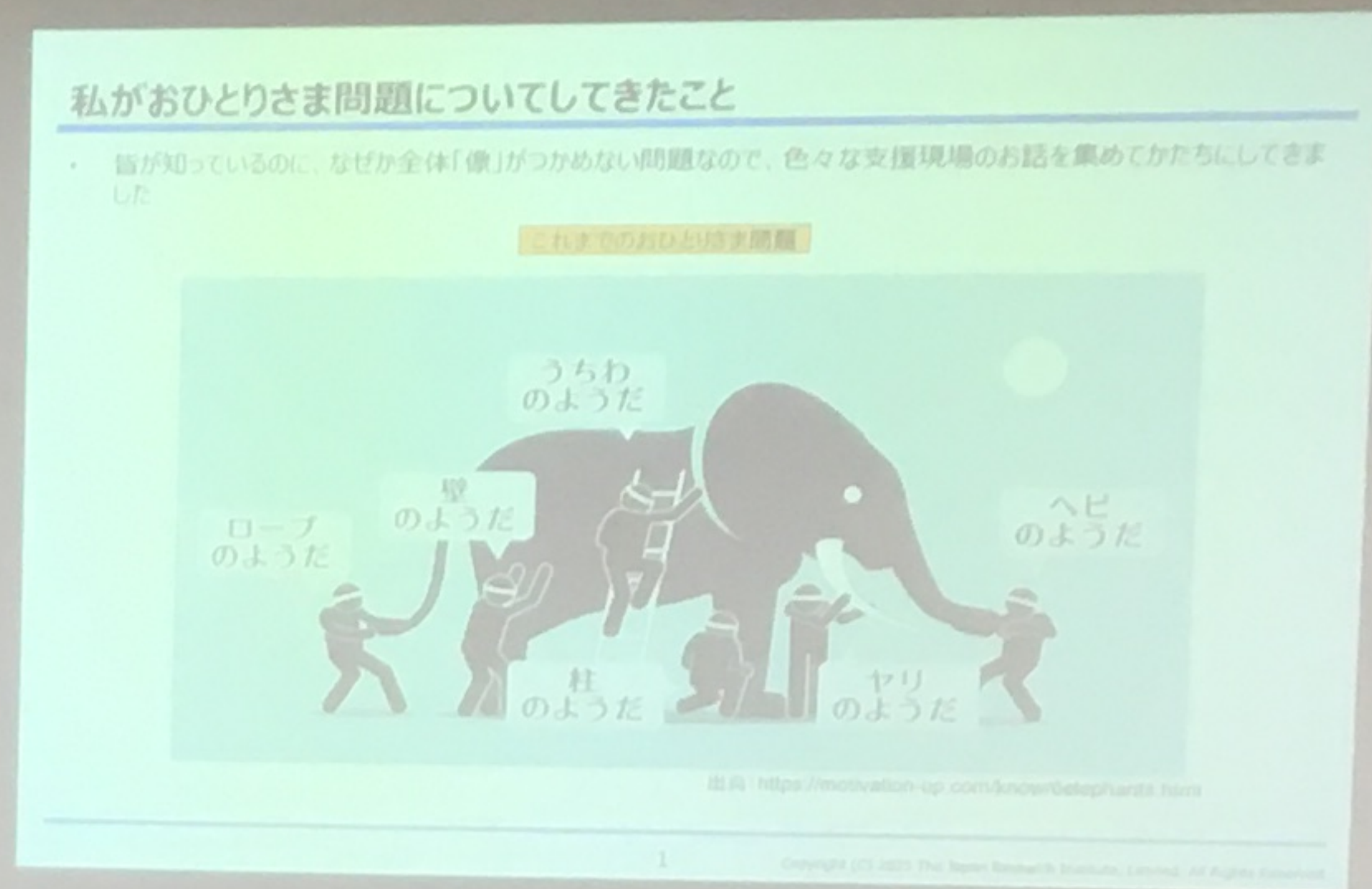
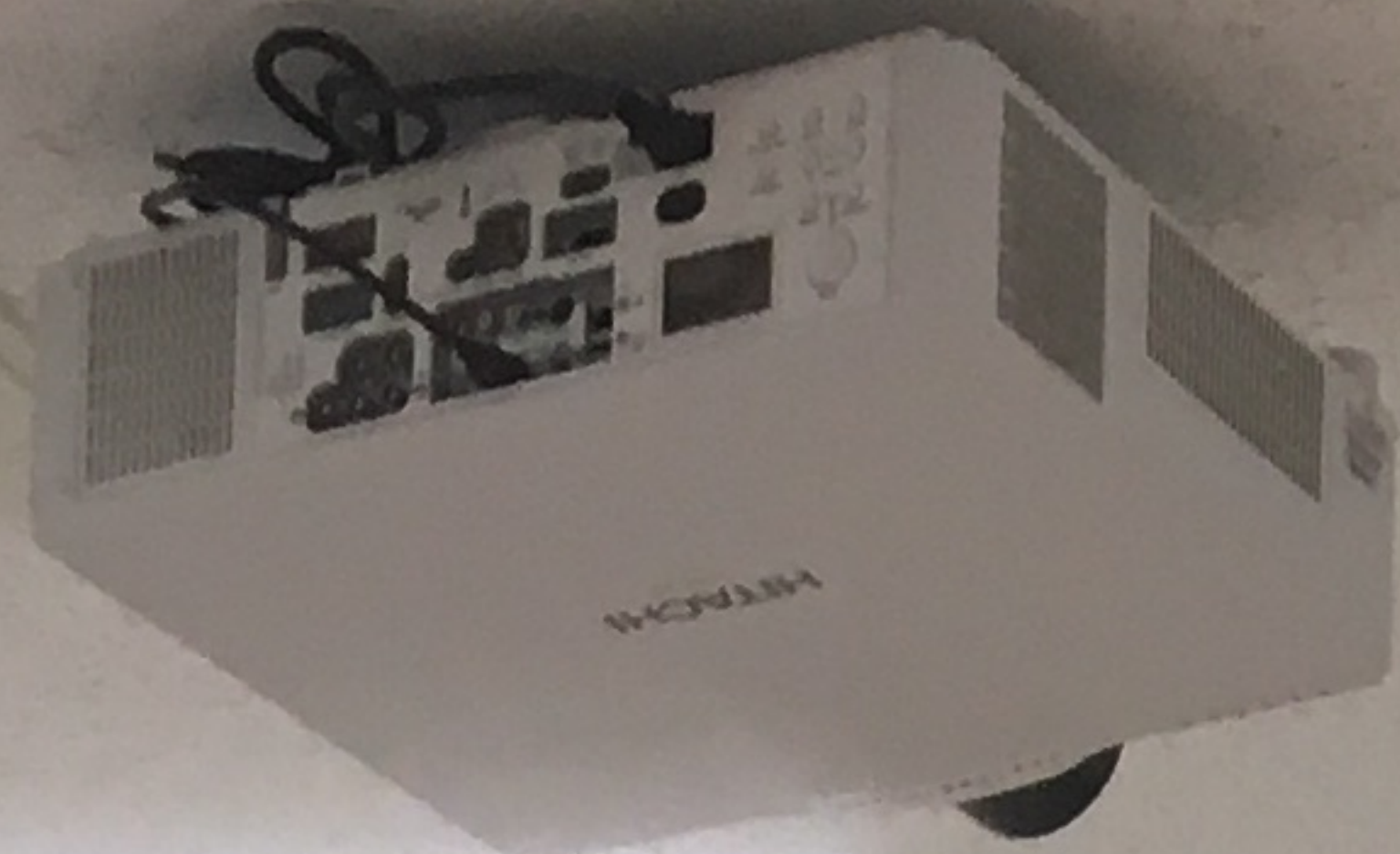






講師：(株)日本総合研究所

沢村 香苗 様



飲み物 自動販売機2階まで
トイレは会場出て左の自動ドア出口
を2,3階まで降りて
(20分)



最近のニュース

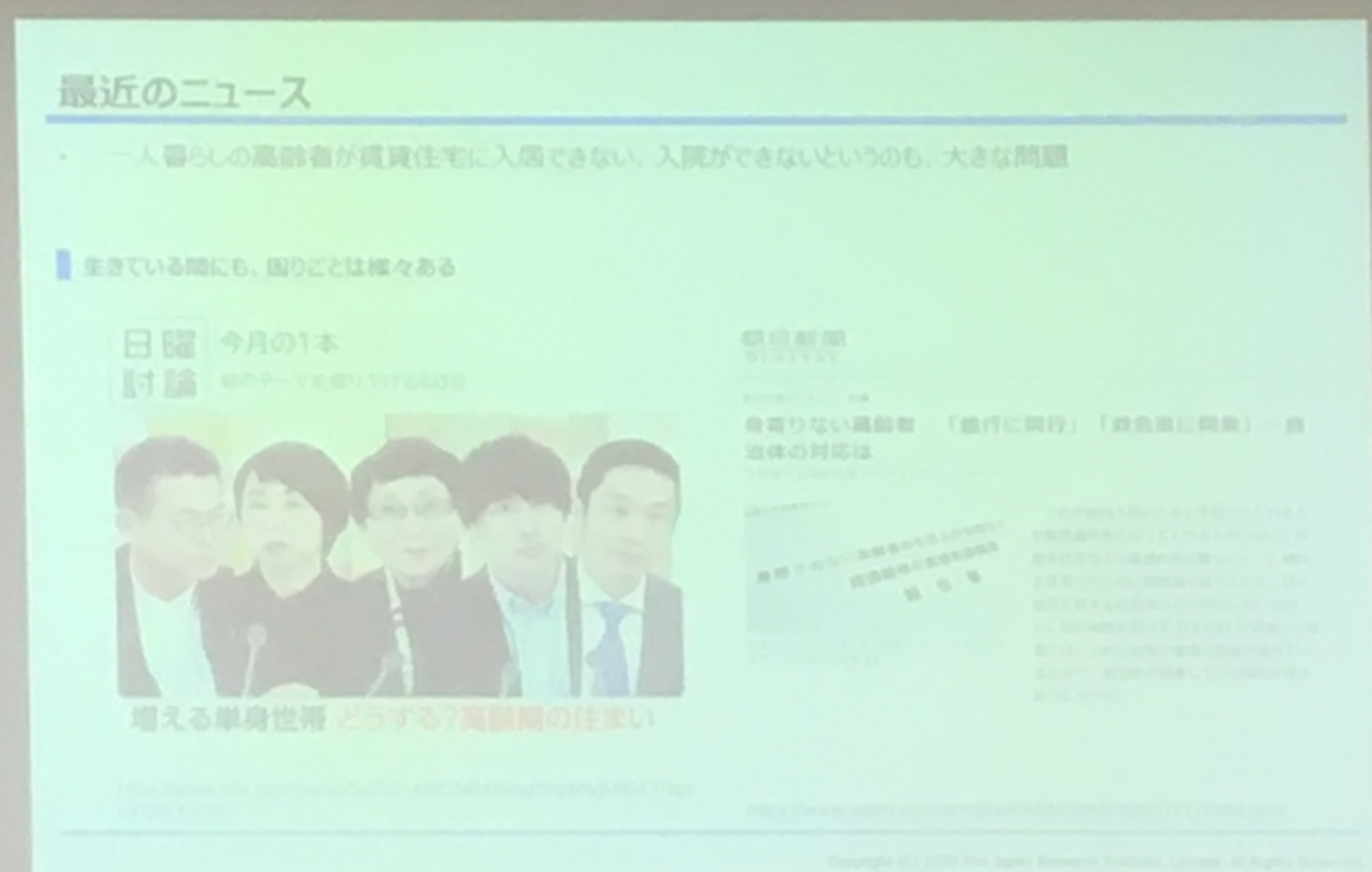
一人暮らしの高齢者が賃貸住宅に入居できない、入居ができないというのも、大きな問題

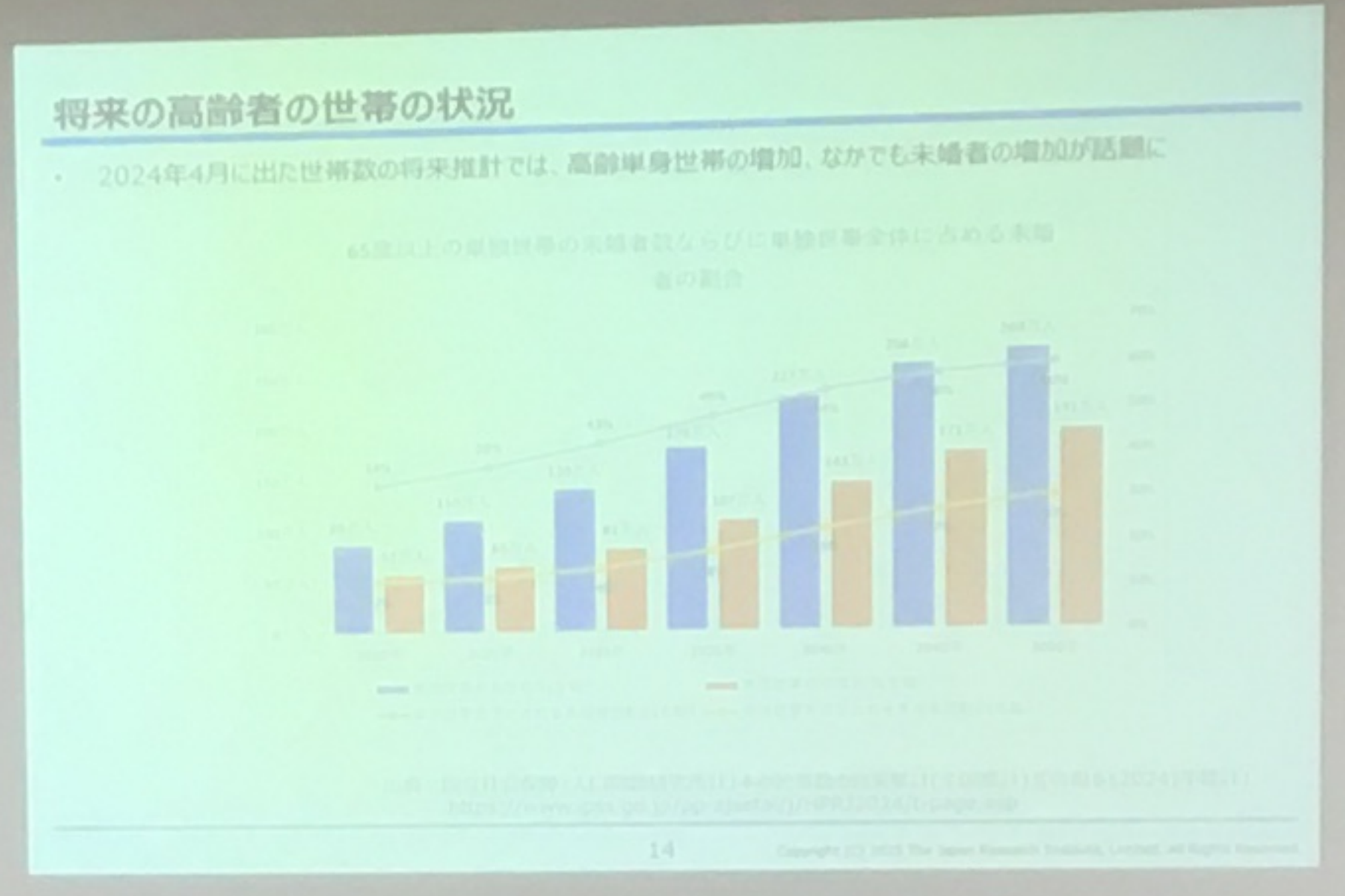
進んでいる間にも、困りごとは様々ある

日曜 今月の1本
討論 高齢者の住まいの課題

緊急対策
高齢者向け賃貸住宅「数行に限り」「賃金上限あり」一歩
前進の動き

増える単身世帯 どうすれば高齢者の住まい





飲み物、自給率は2階まで
+1は会場でも印刷して配布
+2は3階まで配布
(2024)



学生ソーシャルアクリティブ研究会
ぼくたち、わたしたちが考える
「活動の原則！」
2025/4/30

GROUP 2

活動の原則

・飲み物 目録は2階まで
・トイレは合巻とて石の自給水は
先取2階で利用する
(2024)

